

馬毛島・戦闘機訓練

周辺自治体は、そろって基地反対

米軍のための基地建設やめよ



徳之島のように力を合わせ、基地建設を阻止しましょう



【写真】日本共産党は、7月21、22日、屋久島、種子島の一市三町を訪問し懇談、激励をおこないました。写真は、西之表市役所を訪れ、長野力市長、川村孝則議長らと懇談する赤嶺政賢衆院議員（正面右から三人目）、田村貴昭九州沖縄ブロック事務所長（同四人目）、松崎真琴県議（右端）ら調査団。

報道では、250億円もの交付金がとりざたされていますが、基地受け入れと引きかえの振興策は、地域社会を分断し、経済振興にもつながりません。

沖縄県名護市ではこれまで約1000億円もの基地関連交付金がつぎ込まれましたが、箱モノの維持費が市の財政を圧迫し、街づくりが役立たずどころか逆効果になっているのが現状です。昨年1月に新基地建設反対の稲嶺市長が誕生し、基地に頼らない街づくりを進めています。

種子島空港の滑走路と同じ方向で訓練(NLP)した場合の飛行経路。騒音予測地域、コンター、馬毛島、西之表、種子島空港、中種子、南種子、屋久島。(中種子町作成資料)

国は、米軍の訓練は、年間一ヶ月程度、騒音は新幹線の中と同程度の70デシベル以下と説明しています。しかし地元を示した飛行経路図は、気象調査も行っていない防衛省による作図です。滑走路の配置は風向きの特徴を踏まえて決められます。中種子町が、二年間の気象調査をへて種子島の特徴である北西の風向きを踏まえて作られた種子島空港の滑走路配置を馬毛島に当てはめたところ、種子島の上空を飛行することが判明(上図)。国会でも日本共産党の赤嶺政賢衆院議員の追及に「変更の余地は存在する」(防衛副大臣)

訓練中は、米兵が滞在することから犯罪への心配もあります。各地の米軍訓練でも、トラブルが発生しています。

馬毛島での FCLP(空母艦載機着陸訓練) 6月21日の日米安全保障協議委員会(2プラス2)の共同文書で馬毛島を検討対象とし、「米軍の空母艦載機離発着訓練の恒久的な施設として使用されることになる」と明記。戦闘機(スーパーホーネット)を馬毛島に置き、米軍パイロットが岩国から来て訓練。10日間で夜間含め約2800回の離発着訓練を実施。米軍厚木基地では、騒音被害が大問題になっている。

米軍機訓練による騒音被害は？ 国の飛行経路図はウソ。種子島上空飛行も

馬毛島への基地建設は、国の新防衛大綱、中期防衛力整備計画(今後5年の整備計画)にも明記されていません。政府は、米軍の戦闘機によるFCLPを押し付けるために

馬毛島への基地建設の狙いは？ 米軍のための恒久的な基地づくり

日本政府は、アメリカ政府と米空母艦載機の離着陸訓練(FCLP)のために、馬毛島(鹿児島県西之表市)に新たに基地をつくることを約束しました。自衛隊の防災拠点隠れみのにして、馬毛島の米軍基地化を狙ったものです。地元一市三町の自治体が強く反対して

いるにもかかわらず、頭越しに基地を押し付けるなど言語道断です。日本共産党は、米軍のための基地建設を許さず、自然豊かな種子島を将来に引き継ぐために、みなさんと力をあわせてがんばります。

日本共産党